

## 1 令和6年度第2回定例会

日 時： 令和6年7月19日（金）午後2時30分から午後4時00分  
場 所： 中央図書館活動室1  
出席者： （図書館協議会委員）委員7名  
          （事務局）図書館長、企画運営担当1主査、企画運営担当2主査、  
          総務担当主査、総務担当

会長           本日の欠席者は、おりません。多摩市図書館協議会規則第4条により令和6年度多摩市図書館協議会第2回定例会を開催する。

          事務局から配布資料の確認をする。

事務局        本会議の次第と資料1として事前配布している（仮称）第二次多摩市読書活動推進計画体系図案、資料2の多摩市中央図書館開館1周年記念イベントの開催についてである。

会長           議題1 令和5年度多摩市立図書館事業評価について、事務局から説明をお願いします。

図書館長      令和5年度多摩市立図書館事業評価については、前回配布した資料にあるように評価していただくのは、①多摩市子どもの読書活動推進計画の推進について②本館の機能強化について③ICTの活用についての3項目となる。それぞれに評価・ご意見をいただきたい。

会長           事務局から説明のあった議題1について、質問・ご意見等があれば発言をお願いします。

          一つ目の多摩市子どもの読書活動推進計画の推進についてが、こちらの取り組み項目①～⑩・⑭・⑮は継続的なもの、⑪～⑬が新規の取り組みとなっている。

会長           ⑨にあるおはなし会ボランティア育成のあり方検討で内規作成とあるが、具体的にはどんなものか。

企画運営担当2主査   後継者育成にあたり、まずは多摩市立図書館で開催する読み聞かせ講座を事前に受けていただく。その後、既存のおはなし会で活動するのであれば内部で練習を積んでいただく。新たな団体で活動するのであれば、図書館職員が土台となってチェック項目をもとに読み聞かせの育成を行う。これらの手続き内容を内規にお示ししている。

副会長        ボリューム的には、どれくらいのものか。

- 企画運営担当2主査 2ページくらいのものになる。
- 企画運営担当2主査 今年度5月に実施した読み聞かせ初級講座に参加した方が新たに団体として活動したいとの申し出があったので、今回作成した内規をもとに育成を進めていく予定である。
- 副会長 内規の量が多くないのであれば、次回資料をいただけるとよい。
- 会長 多摩市としては、ボランティア育成について力をいれているのか。
- 企画運営担当2主査 新たな団体がなかなかできないなかで、既存の団体を存続させながらも新たな団体及びメンバーを増やすことにつなげていきたいと考えている。
- 委員 ⑦にある複本の充実についてだが、新しい本が少なく感じる。特に2～3年前の新しい本の複本がないので、もう少し増やして欲しい。おはなし会では、季節ものの本の複本がたくさんあるとよい。季節ものの本は、おはなし会の団体が借りる場合が多く、団体は3ヶ月借りることができるので、その間他の人や団体が借りることができない。
- 会長 複本購入の基準はあるのか。
- 企画運営担当1主査 一般書のベストセラーについては、最大値は図書館が7館あるので7冊としている。
- 企画運営担当2主査 児童書についても同様で7冊としている。本の貸出回転数があり、予約数も多い場合は様子を見ながら購入する場合もある。
- 会長 購入には、買い替えもあるが、こちらはどのような場合か。
- 企画運営担当2主査 買い替えは、主に汚破損の場合で、複本ではない。
- 委員 ⑭外国語での読み聞かせを行っている団体について、外国語はどんな言語なのか。子どもたちが様々な文化に触れるとあるが、どのような文化なのか、日本語ではない言語を読み聞かせをすることで子どもにどんなふうに伝わっているのか教えていただきたい。
- 委員 子ども向けの分かりやすい英語で話すおはなし会をやっている団体はある。日本語しか分からなくても、身振り手振りで理解しているようである。
- 企画運営担当1主査 英語が主体である。
- 委員 自己評価の表記の仕方について、アクションプランをみると評価をローマ字のA・B・C・D・Eで表記している。ある程

度評価の目安を示すのに分かりやすいのではないかと考える。  
次回に検討できたらと考える。

①にある子どもの読書に関わる図書館ホームページの充実の部分は、継続的に更新していてよい。

②のブックリストの作成、改訂についても改訂がどの学年でいつ実施されたのか明記されておりよい。

改訂したのちに、司書から意見をもらう機会はあるのか。

企画運営担当2主査 委員 これまでは、この件について学校司書との意見交換をする機会はなかった。今後機会があれば設けたい。

③にある外国語資料について、中国語の資料を購入していただきよかった。ただ実際、どれくらい利用しているか、求めている人に伝わるよう工夫が必要である。国際交流センターに情報を伝えるといいと考える。

③と⑤にある児童館、学童クラブとの連携については、とてもよい。

⑧にある支援の必要な子どもたちへの連携とあるが、すべての子どもに届けられるようにして欲しい。情報提供として「多摩市立図書館ニュース」の配布先を都立多摩桜の丘学園だけでなく、島田療育センター等も加えて欲しい。

⑩にある聖ヶ丘図書館赤ちゃんおはなし会の最後に保護者向けの本を紹介したのは、とてもよい。

会長 評価の仕方については、以前から検討されていたが、結果的にA・B・Cといった評価ではなく、言葉で評価することになった。以前よりは、評価の仕方も統一できてきた。

図書館側の自己評価に対して、表現の仕方があいまいだったりする部分があればご意見をいただきたいと考える

⑤にある児童虐待防止月間にあわせた企画とあるがどんなものなのか。

企画運営担当1主査 この展示は、庁内の関係課との連携したテーマ展示であり、児童館・学童クラブにも図書館の本を展示した。対象は大人向けである。テーマは重いが子どもの権利条約等の本を選書し、あまり重くならないように児童虐待防止への啓発をねらいとした。

会長 新規事業にある保育園・幼稚園へのPRで、今までなかった関係性が生まれたとはどんな経緯か。

企画運営担当1主査 多摩市の園長会で保育園・幼稚園へのセット貸出について、アンケート実施をし、その結果内容をもとにセット貸出の仕組

みを令和4年度に検討した。その後、令和5年度に貸出が開始され、それによって問い合わせや見学等により今までつながりのなかった園ともつながりが持てるようになった。

委員 園長会でセット貸出の件について聞いたところ、セットの内容が分からない、汚してしまったら、と懸念している園もある。自分たちで図書館に来て、団体貸出している園が多かった。自分たちで選ぶほうが適しているようだ。

企画運営担当2主査 9月から1年を通してセット貸出ができるよう現在貸出の仕組みを整理しているところである。以前は、貸出の申し込み期間を設けていたが、それをなくし年間を通して申込ができるようにする予定である。

ホームページにもセット貸出の情報を掲載しているが、もう少し分かりやすい場所にできないか調整する。

委員 小・中学校のように物流が動くのか。

企画運営担当2主査 現在は、連絡車の空いているところで園へセット貸出を届けるようにしている。

委員 季節ごとに本の入れ替えができるとありがたい。

委員 ⑧にある保護者向けの資料を掲載したとあるが、どこに掲載してあるのか。

企画運営担当2主査 紙のリストを作成していて、多摩桜の丘学園へ送付している。島田療育センターには、現在はまだ送付していないが今後広げていきたい。

委員 発達支援室とのブックリストは、支援が必要な子に向けてだけではなく、その保護者や子どもやその他多くの目につくところに配布してもいいのではないか。

ホームページやブックリストにも幅広く掲載してもいいのではないか。

企画運営担当2主査 ホームページには、掲載したいと考えている。各館に支援が必要な子どもたち向けのりんごの棚を設置したので、そちらにも設置したいと考えている。

副会長 イベントを実施した後に簡単なアンケートはとっているか。様々なイベントを実施しているので、それぞれに確信をついた意見を知る機会になる。

企画運営担当2主査 講座以外でのアンケートは実施していない。

副会長 子ども向けのイベントであれば、実施しただけで終わるのではなく中身がどうだったかを検討したほうがいい。

- 企画運営担当 2 主査 先日実施した講座イベントについては、子ども・保護者向けのアンケートを実施している。子どもたちがどんなことに興味を持っているか知ることができるので、今後も機会があれば続けていきたい。
- 副会長 イベント終了後に聞きたい項目を絞ってシールを使い、評価をしたらどうかという意見もあった。主催者側が知りたい項目をキャッチすることができるのではないかと、ぜひ検討していただきたい。
- 会長 アンケートをとることで、図書館側としての評価もしやすいのではないかと。
- 会長 続いて、本館の機能強化について質問・ご意見等があれば発言をお願いします。
- 会長 中央図書館は、雑誌の配架を集中配架ではなく分散する形をとっているが、利用状況はどうか。実際、雑誌は何か所にあるのか。
- 企画運営担当 1 主査 配架場所が 1 か所ではないため、目指している雑誌がどこにあるか分からないというご意見をいただくことはある。2 Fには、1 か所。1 Fは、分野ごとに配置されている。
- 会長 利用者は、情報にアクセスしやすいようになったととらえているのか。
- 企画運営担当 1 主査 雑誌を本と一緒に配架している事例で、他で実施しているのを認識しているのは長野県の小諸市立図書館くらいで、あまり例はない。図書館の利用者アンケートでも意見をいただいているので、内容を見ながら配架や案内の仕方についても、今後検討していきたい。
- 副会長 配架を分散させたのち、どの場所にどのカテゴリーの雑誌があるか分かるマップはあるのか。
- 企画運営担当 1 主査 OPACで検索することで、赤い表示で場所が示される仕組みになっている。個々の雑誌の場所を示したマップはない。
- 副会長 既存のマップには場所を落とし込んだほうがよい。雑誌が分散していることで、利用者に図書館内を回ってもらう回遊が生まれ、逆に様々な情報をあらたに発見する面白さにつながってよいのではないかと。
- 委員 中央図書館には、すべての雑誌があるかと思ったが、他館にはあり、中央図書館にはない雑誌がある。
- 企画運営担当 1 主査 専門的な雑誌については、中央図書館に寄せた雑誌も多いが、地域館にもユーザーがいるので、すべてを中央館に持ってくる

わけにもいかない。

雑誌は、年間を通して購入費が必要となるものなので、すべての館に置くのは予算的にも現実的に難しい。

委員 予算がないのであれば、ある程度は仕方がない。

会長 図書館資料において、ビジネスの問い合わせがあるということだが、多いのか。ビジネス支援も実際は資料だけという図書館が多いが、多摩市は人的サポートまでしているのか。

企画運営担当1主査 人的な支援までには至っていない。そこまで職員のスキルが追い付いていない。

図書館長 図書館単独では難しいが、市役所にも関連部署があるので連携してビジネスサポートしていけるよう今後検討していきたい。

会長 続いて、ICTの活用について質問・ご意見等があれば発言をお願いします。

会長 新規登録者数は前年度の8.1倍となっているが全て職員が処理したのか。

企画運営担当1主査 仮登録してから本登録をするが、7・8月は非常に登録者が多く、開館直後は登録するだけで2～3時間待ちだった。内容を確認するのに3～4ヶ月かかったが、全て職員がおこなった。

会長 セルフ貸出機による貸出数が94%になっているが、カウンター対応となるのはどういう場合か。

企画運営担当1主査 主に協力貸出は、セルフ貸出できないのでカウンターになる。他にCDが何枚も重なってうまく読み取れない場合等は、カウンターを案内している。

会長 自館所蔵の本については、ほぼセルフということによいか。基本は、職員がセルフ貸出機の案内をしているのは正しい対応だと思う。カウンターで処理をしてしまうと人によって差異が生じてしまう。同一のサービスを徹底しないと苦情につながることもある。

委員 ICタグについて、セルフ貸出機で処理をしたにも関わらず出口でエラーが鳴ったことがあるが原因はなにか。

企画運営担当1主査 セルフ貸出機での処理でタグの重なり具合等の問題で読み取りがうまくいかないこともある。

また、UHFの電波は広範囲に飛ぶので、ゲートの回りにある本のタグ情報をキャッチして反応してしまうこともある。

委員 予約していた本のレシートが紛失した場合、もう一度やろうとすると、レシートは出てこないのか。

- 企画運営担当1主査 委員 会長  
もう一度出てくるはずである。回数制限はないのでレシートは出る。  
I Cタグのエラー情報について、よくあるQ&Aのように表示がしてあると職員も伝えやすいのではないかと。  
副会長 予約の受取に関する、実績の数字データはあるのか。以前より増えたか、減ったか。予約システムをどれだけ便利だと感じて利用していたかを知りたい。増加数でもよい。
- 企画運営担当1主査 委員 委員 会長  
予約数は、各館ごとに出しており、増えている。今すぐ具体的数字は出せない。全体で言うと、令和4年度が47万2千217件で令和5年度が49万1千144件で4%増である。  
利用者が単純に増えた、蔵書が増えたことで全体に増えたのではないかと。  
予約棚だけで比較をするのであれば、永山とか関戸で比べた方がいいのではないかと。  
人が増えた、蔵書が増えたということになる。  
地域館は、セルフでないのも、あれば便利に感じる方もいる。  
次回に今回評価・ご意見いただいたものをまとめたものをお示ししていただく。
- 会長  
続いて、報告1の有識者会議の報告である。  
有識者会議は、5月30日に開催され、中央大学の小山会長をもとに13名で実施された。初回の会議においては、市から策定スケジュールの説明があり、全部で6回の会議を開催し、来年の9月には原案を策定したいとのことである。  
委員からは、計画の名称が振興計画ではなくて、図書館の計画なのだから基本計画にしてもいいのではないかと。また、有識者会議で出た意見がどれだけ策定内容に関われるものなのか整理をして欲しいとの意見があった。  
事務局より、現在の多摩市読書活動振興計画と第三次多摩市子どもの読書活動推進計画の成果と課題の報告があった。  
委員からは、中高生の読書が好きな割合が高いのは非常によいが、まだまだ絵本離れが感じられるとの意見があった。  
評価の指標について、数値の上下だけで効果を判断することはせずに慎重にしたほうが良いとの意見があった。  
3月に実施したアンケートの集計結果については、特に議論はなかった。  
振興計画体系図について、事務局から説明があった。現行は4つの基本目標に対して17の取り組みを掲げており、このな

かの二つ目にある子どもへのサービスの充実に第三次多摩市子どもの読書活動推進計画を盛り込むことになる。

今後の体系については、基本的な考え方にあるように基本目標（１）・（２）・（３）へ項目を追加、基本目標（２）については、内容を整理する等の説明があった。委員からの意見等はメールで集約し、次回に枠組みを確定したいとのことだった。

委員からは、７月の確定はかなり厳しいのでもう少し弾力的に行ってもいいのではとの意見があった。

また、目標の下に基本理念を置くのではなく、基本理念があって、その下に目標があるものではないのかとの意見もあった。そのあたりもしっかり検討して欲しいとのことだった。

次回の会議は８月３０日を予定している。

会長からは事務局に対して、丁寧に対応するようご意見があった。今回の会議で体系が見直されるのではないかと。

図書館長 多くの意見をいただいたので、体系を組み直して、次回にお示ししたいと考えている。

会長 有識者会議にコンサルタントは入っていないのか。

図書館長 入っていない。

会長 事務局とセッションするという役割としては、ひとつの手段である。

副会長 多摩市読書活動振興計画は、図書館としても深い関わりがあるので、ある程度どんな内容が会議で話し合われているのか議事録を読み込んでおいてもいいのではないのか。議事録のなかに多摩市立図書館基本計画にすべきだとの意見があったが、多摩市読書活動振興計画に子ども読書活動推進計画を入れ込んだのだから、図書館基本計画にすると子どもの計画が埋没してしまうと思うので反対である。名称はそのままでよい。

新たに多摩市立図書館基本計画を別に立ててもいいのではないかと。

子どもの計画を手厚くしたほうがいいと考える。

委員 図書館自体の基本計画がないのが問題だと考える。読書計画は別にあって構わない。

副会長 多摩市立図書館の基本計画に着手してもいいのではないかと。周りの自治体も基本計画があって、読書推進計画がある。

図書館長 （仮称）第二次多摩市読書活動振興計画では、読書だけに限らず各図書館の特徴を入れていくことや運営方針等にも踏み込んだものを入れる予定としている。



- 副会長 利用者の意見収集はしているのか。
- 図書館長 利用者からの意見収集については、実施したアンケートを参考にしながら、今年度内に素案を作成し、市民への説明会で多くの意見を聞くために広範囲で実施する予定としている。また、利用者懇談会でも多くの意見を聞いていきたい。
- 副会長 利用者からの意見は、すごく重要ではないかと考える。  
利用者懇談会は、特定の利用者に限られるので、より幅広い形で意見をもらえるようにして欲しい。  
アンケートの結果は出たのか。
- 企画運営担当1主査 まとまりつつある。
- 副会長 アンケートをとった大学、高校の母数が分かれば教えて欲しい。図書館協議会で出た意見を有識者会議に出して行くことも可能なので今後ご意見があれば出して欲しい。
- 会長 続いて、報告2 多摩市立中央図書館開館1周年記念イベントの開催について、事務局から説明をお願いします。
- 図書館長 資料2にあるイベントの内容は前回ご説明しており、現段階で分かる実施状況について、お知らせする。図書館主催の7月1日から31日実施の読書リレーマラソンについては、7月17日時点で引換券を709枚配布した。7月6日実施の開館1周年記念のブックカバー配布については、当日の昼過ぎには210枚を全て配布した。7月15日実施の小学生向けの恐竜教室については、定員30名のところ167名の申し込みがあり、抽選で参加していただき、大変好評であった。7月17・19日実施の惑星体感のイベントでは7月17日時点で59名の参加であった。20日のワークショップについては、定員30名のところ申込者数が18名なのでまだ空きがある状況である  
続いて、市民協働によるイベントで7月21日実施のひらめきと身体でつくる空想の世界については、定員10名のところ2名の申し込みとなっている。7月27日実施のライブラリートークについては、定員10名程度のところ8名の申し込みとなっている。8月3日実施のみんなで読もう！みんなで聞こう！夏については、朗読者2名の定員が決まっている。
- 会長 事務局から説明のあった報告2 多摩市立中央図書館開館1周年記念イベントの開催についてについてご意見等があれば発言をお願いします。
- 会長 ないようなので、本日の令和6年度第2回定例会は終了する。

